



→台風前の江戸川。都内のビルを写して波静か。



←ハトの巣。矢印のところを拡大したのが上の写真。



東京都の南の海上で発生した台風は
いったん南に下り、鹿児島県の屋久島
から種子島方面で急に向きを変えて北
上を始めた。

四国から関西方面を通過して日本海
に抜ける予想になっているが、予想円
の南を通ればふたたび東京方面に向か
わないとも限らない。

水害に弱い矢切の渡しでは、舟頭さ
んが最悪の場合を考えて舟の係留先を
考えていた。

「台風ばかりはどうしようもないんだ
よね、これだけ科学が進んでも」

なかばあきらめるように舟頭さんが
いった。

「大丈夫だよ。こっちには来ないし、
いったん上陸したら進行が早くなるか
らアツというまに過ぎるさ」

私がそういうと舟頭さんは、
「そうかなあ、そうだといけれど」

「そうだよ。海上を進んでいるときは
とつかかりがないからゆっくりと風ま
せだけど、上陸すると山をつかまえて
進むからスピードがあがるんだ」

そう私が説明すると、舟頭さんは鼻

今週のクマ

→むじゃきなクマ。鼻の頭に木の葉をつけていても平気な顔。



→キツネノカミソリが咲いた。春に葉が出て夏に消えそれから花が咲く。彼岸花と逆だ。この辺りでは矢切の渡しから1キロほど離れた貝塚山公園でしか見られない。



の穴をふくらませながら、
「それって、本当なの？」
この素人が、いいかげんなことをいってるとばり笑った。

たしかに私は気象を勉強したわけではない。たんなる経験にもとづく私の解釈だ。でも、洋上ではつかまるところがないからウロウロするだろうし、上陸すれば丘や山があるから、それらをつかんで進行できるので強い台風ほど早いスピードだ通過するはずだ。私には台風がそうして進んでいる姿が見えるのだ。

いずれにしても、あと二〜三日すればわかる。私のカンではそうなっている。

ところで話は変わるが、四日ほど前に矢切の渡しでハトの巣を見つけた。売店の横に雨よけのテントを張ってあるが、その脇のヒバだかヒノキだか分からないが、その木の地上四メートルほどのところに、かんたんに木の枝を組んだだけの巣をつくり、親鳥がじっと卵を抱いていた。毎日のように見ているが親鳥は日によって向きを変えるていどでエサを食うために飛び立つでもなくじっと抱いている。この暑いのにご苦労なことだ。

続きは次週また書く。